

《無断転載を禁ずる》

2026年度 群馬県立女子大学文学部国文学科
一般選抜（前期）

採点のポイント

問題一

（一）

問1 「人間にとってのヒューマニティ」について本文を踏まえて適切に説明できているかどうかをみました。

問2 「独特な「人」の概念」について本文を踏まえて適切に説明できているかどうかをみました。

問3 「物語りの営み」について本文を踏まえて適切に説明できているかどうかをみました。

問4 「「この現実」の境界を歪ませ、その土台を揺るがせる」ということについて本文を踏まえて適切に説明できているかどうかをみました。

（二）

問1 「パラドキシカルに表現している」ということが本文を踏まえて適切に説明できているかどうかをみました。

問2 「形式化できない」や「他の働き」ということが本文を踏まえて適切に説明できているかどうかをみました。

問3 「いい方の区別」が「論理的な正しさ以上に基礎的なものとされる」理由が本文を踏ま

えて適切に説明できているかどうかをみました。

問4 「存在する必要な差異を表現する」ということが「記号の論理性の一つに入れてもいいかもしれない」と言える理由について本文を踏まえて適切に説明できているかどうかをみました。

問5 「非本質的な譲歩」について本文を踏まえて適切に説明できているかどうかをみました。

問題二

問1 二重傍線部「書いてつかはしたりければ」について、古文の基礎的な文法の知識に基づいて品詞分解が正確にできているかどうかをみました。

問2 傍線部「男ある人なれば」、「さもあらばあれ」、「おろかならず」、「本意なくおぼしめす」について、古文の基本的な語彙の知識に基づいて正確な現代語訳ができているかどうかをみました。

問3 傍線部「あなかまといさめんも、びんなかるべきことなり」、「よも悪しくははからひ申さじ」について、古典の基本的な文法や語彙の知識を応用して文脈を読み解きながら正確な現代語訳ができているかどうかをみました。

問4 傍線部「いかにもかくれあらじと思ひてありのままに語れば」について、古典の基本的な文法や語彙の知識を応用して文脈を読み解き、登場人物どうしの関係やそれぞれの状況・心情が読み取れたかどうかをみました。

問5 傍線部「いよいよ心まさりしてめでおぼしめしける」について、古典の基本的な文法や語彙の知識を応用して文脈を読み解き、登場人物どうしの関係やそれぞれの状況・心情が読み取れたかどうかをみました。

問 6 傍線部「『この暮れに必ず』とある文字の下に、『を』といふ文字を、ただひとつ墨黒に書いて」について、古典の基本的な文法や語彙の知識を応用して文脈を読み解き、登場人物どうしの関係やそれぞれの状況・心情が読み取れたかどうかをみました。